

第三章
お父さんと弟が命をくれたん



富永枝理ちゃん（3歳）・絵



3月26・27日、有馬温泉で第1回震災遺児を励ますつといを開催。遺児親子96人と遺児学生ら53人が参加。



8月8～10日、第2回震災遺児を励ます香住のつといを開催。遺児37人が参加。海水浴やキャンプファイヤーを楽しむ。

作文集

死にたかった

中学一年 T・M

じしんの時、二段ベットにねていたら、
ゴーツと地なりがして、ものすごくゆれた。

ゆれたかと思うと、ドツスンと家がつぶれて下じきになった。

その時、私は「もう死ぬんじゃないか」って思った。

もし、死んでもべつにくいはないから、

死にたかったな。

そうしたら、そのかわりにお父さんもお母さんも助かったかもしれないのに……。

ごめんささい。

あの時、じしんがおさまっても、だれも助けにきてくれなかった。

外では人の声がしていたけど、

「自分が助かれればべつに他人が死んでもいい」

というようなことを話していた。

人間はみんな自分かってで、他人なんてどうでもいいんだ！

でも、私もそうだったけど……。

お父さんと弟が命をくれたん

文化住宅の一階に、夫と私と娘と息子、四人で寝ていました。ほとんど同じ場所において、娘はタンスとテレビの間で無傷でした。私はタンスで足を痛めて四時間後に救出されました。

私はそのまま病院へ運ばれたのでわからないんですが、娘は必死に、お父さんと弟を早く出してあげると周囲の人に訴えていたらしいんです。そのかいもなくて、夫と息子はダメでした。ドレッサーの下敷きになっていた息子は、救出された時はまだ温かったと言っていました、頭を打っていたらしく、そのまま逝きました。小学生でした。

夫は二日目にやっと出されました。もう冷たくなっていたそうです。

二人ともまだ眠っているような顔でね。元気に起き上がってくるんじゃないかと思えてならなかったです。

夫は腕のいい職人でして、本当に仕事熱心で優しい人でした。仕事で疲れていても、休日には六甲山にドライブに連れていってくれたり、家族サービスもよくしてくれました。

お得意さんにもずいぶん惜しまれてね。

「今でも、どんな形でもええからまたこっちで始めてや。よそへはよう出されへんのよ」
と言ってもらいますが、なかなかふんぎりがつかないんです。やっぱり一人でやらかなあかん

し、家は全壊で機械もみんな壊れてしまったし、それ思うとね。神戸には帰りたいんですけどね。

今は姉夫婦のいる大阪にいます。娘はケガはなかったけれども、父親と弟をなくしたショックは大きかったと思います。でもね、時々こんなこと言うんです。

「私ね、大阪へ来て変わったんよ」

本当にね、前は引つ込み思案だったのに、この頃は積極的になりました。姉の子ども達とも仲良くやっていますよ。訪ねてきてくれた神戸の小学校の先生も、明るいから安心したと言ってくれました。

でも、三月の作文に、

「お父さんと弟が私に生きる命を与えてくれました。写真の中では、お父さんと弟は見えてるけど、本当のお父さんに会いたいです」

と書いていたそうです。これを聞いた時、涙が止まらなくてね。二人の死をこんなふうに感じ取っているんですね。

年頃のせいかな、最近は少々反抗するようになってきました。夏休みもテレビばかり見て宿題も進まないようでしたしね。これから中学、高校と成長するにしたがってどうなるのか、やっぱり心配ですね。素直に育ってくれればいいです。それだけです。

ああ、この苦しみから逃れられる

主人と二人で二階で寝てたんですけど、古い家で屋根がすごく重くて、ペシャンコにつぶれてしまいました。三、四時間、二人で瓦礫に埋もれながら、ずっと話してたんですよ。

「私たちが死んだら、あの子一人になってしまいうからがんばらなあかね」

うなずいていたんですけどね。私が助けられた後も、主人は重い梁の下敷きになっていて動かないですよ。たくさんの方が助けに来てくれたんですけど、重くてね、内臓破裂でね。

主人は淡々としていて無口な人でした。でも今まで私はそれを物足りなく思ってたて……。亡くしてからはじめてその存在の大きさに気づいて、自分でもびっくりしています。

父親としても、息子のことをほめもしなげりや、けなしもしないような人でね。息子も今までは不満やってみたいやけど、大人になって、やっと父親の大きさに気づいた矢先でした。これからって思っていたのに逝ってしもて。

息子と二人で話していても、お父さんに対するいろんな想いがあるから、すっごく、すっごくしんどくてね……。

時々息子が本を買ってきてくれます。やっぱり、生きるっていうことに関する本です。私に買ってくるというより、息子自身がつらいんですよ、きつと。

物はすべてなくなりました。瓦礫の中から、どうにか洋服とアルバムの一部だけは取り出せたけど、アドレス帳がなくてね。知り合いに連絡の取りようがないんですよ。

震災の後、雨が降ったでしょ。だから一層取り出しにくくなってしもて。落ち着いたらまた捜しに行こうと思ってたけど、ブルドーザーであつという間に片づけられてしもたでしょ。

主人だけをなくしたわけじゃないんですよ。家もないし、何にもない……。

昔の友達が励ましてくれるけど、話が合わないですね。友達は震災を経験してないでしょ。今はあしなが育英会や日航機事故の集まりで知り合った、ご主人を亡くされた方達とだけ話す気になります。

朝起きるとね、思うんですよ。ああ、今日も一日このつらさや苦しみと闘わならんってね。夜寝る時は、ああ、ちよつとでもこの苦しみから逃れられんって。私、眠くなくても寝ることあるんですよ、忘れるためにね。もう何の楽しみもないですよ……。

今までの価値観や生き方すべてが変わりましたね。今まで何でもうまくいったのを当たり前前と思って感謝したことなかったんですよ。それが震災を機会に、私の人生すべてが変わってしまった。震災前の生活が夢で、地震で何もかもなくなった今の生活だけが、現実なんやと思うくらいに。

娘がいたからがんばれた

発見されるまで瓦礫の中で私も気を失っていたようです。救助の人が来てくれた時、腕に抱えていた娘をまず救出してもらいました。次に私も助け出されましたが、妻と息子は二階から落ちてきた天井にはさまれていてダメでした。

避難所の体育館には朝の十一時頃入りました。その時は遺体はまだポツリポツリとしかありませんでしたが、午後になるとバタバタと運ばれてきました。

でも、棺桶が品切れで手に入らないんです。三、四日たつてやっと組み立て式の棺桶を手に入れて自分たちで金槌を打って作りました。

避難所では、隣町に住んでいる妹のおかげで、比較的早いうちから暖かい食事をとることもできたし、寒さを防ぐこともできましたが、眠ることはできませんでした。でも、ある時会社の人々が酒を差し入れしてくれたんです。こんな時に不謹慎かな、とも思いましたが飲まずには眠れませんでした。

今は娘と二人、弟の家で世話になっています。来年には壊れた家の場所に新しい家を建てて、母と娘の三人で暮らそうと思っています。

震災前、借地だったところを買い取ったばかりなんです。そのローンも残っているし、今度

は新しい家のローンも重なるので、やりくりが大変ですがなんとかがんばるしかないでしょう。娘の口からは今でも、お母さん、お兄ちゃんの、おの字も出ません。かなりのショックだったんだと思います。私と二人つきりになるとしよぼんとしている時もあります。

娘にとってはケガよりも目に見えない部分での傷が大きかったようで、夜中に怖い夢を見たと言って、寝ている私を起こすんですよ。寂しいんでしょうねえ。

五、六月頃が一番大変だったでしょうか、お腹が痛いと言ったり、学校へ行きたくないとか言い出して……。病院で診てもらったら自律神経失調症だと言われました。

今はだいぶよくなりましたが、それでも時々調子の悪いときもあります。

今の私にとってこの娘だけが支えです。もし私一人生き残っていたらどうなっていたかわかりません。娘がいてくれたからがんばれたんだと思います。

今回のボランティアの人たちの活躍には感謝しています。いろんな方がボランティアとして参加してくれていて、そういう人たちを見ると、これが一番人間らしい姿なのかな、と思いい、少し明るい気持ちになりました。

あしなが育英会のこと震災ではじめて知りました。激励金をいただいて、その後保護者の懇談会などに参加させていただいたんですが、いろんな人のお話を聞くうちに、それまで自分達のことしか考えられなかったことを反省させられ、考え方も少し変わったように思います。

生活が根底から変わってしまった

近所の人の力を借りて、瓦礫の中から家内を引っ張り出した時、家内の手が息子の手を握り返したんです。でもまったく声はありません。

その時ちょうど娘の友達が、車で様子を見に来てくれたんです。すぐに家内を車に寝かせ、娘と一緒に病院へ連れていってもらいました。

私は、うちが管理している借家に住んでいる八十歳のおばあちゃんを助けるために、息子と木を切ったり、瓦礫をどけたりして救助活動に必死でした。

娘に託した家内は無事病院で手当てを受け、元気になりました。これまで仕事一本でやってきて、家のことはすべて家内にまかせっきりでしたので、その家内がいなくなるということは、私たち家族の生活が根底から変わってしまうことを意味してました。

特に娘にとっては、日頃から母親と友達のように仲良くしていたのも一緒にいましたから、震災からしばらくの間、精神的なショックは相当大きかったようです。

学校も本気でやめようとしたんですが、あしなが育英会の方達のおかげで、何とか卒業までこぎつけました。本当にありがたく思っています。

娘は今、保母をめざしてがんばっています。クリスチャンのせいとか、精神的な支えがあって、

心の安定はなんとか保っているようです。

家事も娘が家内に代わってやってくれています。

私も知らず知らずのうちに、家内に言っただようなことを娘に要求してしまっただけで、娘の反発を買ったりしています。食後の食器洗いくらいは手伝うようになりました。今までは台所に足を踏み入れたこともなかったんですが……。私にとってはまったく新しい世界です。

ところで今回の震災で頭にきたのはお役所のやり方です。

私たちが避難したのは福祉センターだったんですが、この二階建ての建物に家をなくした人達がどんどん避難してきて、一階はすぐいっぱいになってしまいました。二階にも人を入れなないと、とても収まらない状態だったんです。

ところが役所の人間は、二階は管轄が違うから許可をもらわないといけないと言って、入れようとしません。夜の十時、十一時ですよ。みんな行くところもなく寒風の中に投げ出されているというのに、そんな事務的な対応でありますか。

それに比べて若い人たちが、バイクで必需品を配って回っていたのには感心しました。中には自分もケガしてるのに、ボランティアをしている若い人もいて、ああ、やる人はやるんだなと明るい気持ちにさせてもらいました。

生きていかなきゃ

短期大学一年 U・I

地震の時、私と祖母は二階、両親は一階で寝ていました。木造建築の古い家だったので、あつという間に崩れ落ちてきました。何が何だかわからず、気付いた時にはまっ暗闇。左肩に強い衝撃だけが残っていました。その時に聞こえてきた母の悲鳴だけが気になって……。お母さん、死んでたらどうしよう、その思いで胸がいつばいで、助けなければと、必死で体を動かしました。すると、足元の方にすき間があり、いちかばちか体を動かしていくと、屋根から顔を出していました。とにかく私は全員に声をかけました。おばあちゃんのははつきりした声で、父もうめき声でしたが返事をしてくれました。母の返事はありませんでした。でも、どうすることもできませんでした。

突然、「火事だ！」という声が聞こえ、振り返ると煙がもくもくとあがっていました。出火元は隣の家でした。家はあつという間に炎に包まれました。家族の声は聞こえていゝるのに、火の勢いがすごすぎて、どうすることもできませんでした。

ずつと、私一人が助かったことを後悔しました。パジャマ一枚、裸足の姿で、泣きながら茫然としている私に、今まで面識のなかった人達が食べ物や、コートや靴下、靴などをくれました。近くの学校では、家が無事だった人々、市外から駆けつけてきた人達

作文集

が焚き出しをしてくれました。みんな口々に、「がんばらないかん。泣いたってどうしようもない」と言っていました。何だか元氣づけられるような氣がしました。そして私も泣いたってしょうがない、家族が助けてくれたんだから、生きていかなきゃ申し訳ないと思いました。

次の日、私は近くに住んでいた親戚の家へ避難しました。そして、地震発生から四日後、父、母、祖母の三人の遺骨が見つかりました。

遺骨を拾いに行った時のことですが、テレビカメラが来ていて、ガレキの上に乗って中継していました。それを見た時、すごく悔しくて悲しい氣持ちになりました。そこは私の家ではありませんでしたが、それでもやっぱりいやでした。何だか自分自身を踏みつけられているような氣がしました。でも、すごく腹が立つのに何も言えなくて、そんな自分も嫌になりました。

いざという時、本当に助けられるのは近所の人であり、一般の人であると思っています。政府は何の役にも立たないんだな、と思いました。今は、政府は地震対策としていろいろな方針を出しているけれど、もうしばらくしたら、たぶん、被災地以外の人々は地震のことを忘れ、政府も忘れ、結局、何年後かに他のところで大地震が起こっても、何も対策をしていないままなのではないでしょうか……。

肝心な時に助けてやれなかった

必死になつてもがいて私がどうにか外へ出た時、女房はまだ息があつて、助けて！ っていう声が聞こえたんです。でも女房も下の娘も埋まっている場所が全然わからなくて、必死になつて捜してたら、踏んだところから娘の、痛い！ っていう声が聞こえてきました。娘を出そうとしたけれど昔の家で梁がでつかくて、手ではどうにもできない。

助けてくれて叫んだら、若い人がどこからかノコギリを持ってきてくれて、三人で交替交替に切つて、やつと娘を助け出しました。女房はこの子と一緒に寝てたから必ずここにいると思つて、必死になつて上のものを全部どけたんです。そしたら、やっぱりそこにいてね。ですぐ出したんやけど……。

その時ちょうど救急車が通つたから、女房助けてくれーって道に飛び出て止めたんです。でも全然助けてくれなかつた。車にひかれてもいいっていう覚悟で飛び出したのに行つてしまいました。パトカーも通つたから頼んだんですが、それもダメでした。とにかく車は使えないし、道路も渋滞してて動かなかつたし、どうしようもなくてね。もうちょっと自分がしっかりしとつたら助けてやれたんちやうかなあつて、最近になつて考え込むことが多いんです。

娘がね、こっちへ来てから登校拒否を起こしまして。何しろあの子は女房の隣で寝てたから、

助けてくれてっていう声も聞いてるし、それが耳に残ってるみたいでね。地震のショックもあるし、母親がいなくなったというショックもありますよね。

私がどんなにがんばっても女房の代わりにはならないんです。自分なりに一生懸命やってるつもりなんですけど、やっぱり子どもには母親の方がいいみたいです。

子どもはやっぱり神戸へ帰りたいみたいです。だからできたら連れて帰ってやろうと思ってるんですけど、住むところがないしね。今、友達に頼んで捜してるけど、めっちゃめっちゃ家賃が高い。まあ、見つかりしだい、帰ろうと思ってます。

そのことを子どもに話したら、

「神戸へ帰れるんやったらがんばって学校行く」

と言ってね。それが励みで学校に行ってくれてるみたいです。

女房の話に触れられるのは子どもよりつらいんです。子どもが、

「お母さん、助けてって言うよった」

なんて言うよね、パニックに陥りそうになって、話をそらしてしまうんですよ。

笑われるかもしれないけれど、主人や主人やと大きい顔をしていたのに、肝心な時には助けやれなかったからつらい。つらいなんて言うもんじゃやないなあ。

母親が生き残った方がなんぼかよかった

四人の子どものうちの中学生の次男と嫁はんが亡くなりました。子どもらは四人とも同じ部屋で寝てたんですけど、寝ている場所によって違ってしまつたみたいです。近所のお医者さんがすぐ来て診てくれたんだけど、その場で、もうあかんって言われてね。

あの時は救急車も呼べないし、どうしようもなかった。でも今でも思うんだけど、すぐに病院へ連れてっていたら、もしかしたら助かつたんやないかって。

今、三人の子どもは嫁はんの田舎で預かってもらってます。私は一人で今まで住んでたところの近くにアパートを借りて住んでいます。仮設住宅も五回も申し込んだけど当たらなかつた。

それでも初盆までにはどうにかしないと仏壇を置くところもないですからね。月十万円の家賃は、はっきり言ってちよつと高かつたけれど、無理して借りました。通勤のこともあるからあんまり遠くへも行かれないんです。ここなら子どもを田舎から引き取つても、前と同じ学校に通えるし、ここらへんを離れたらあかんと思つてるんです。

子どもらが世話になつてる田舎には、おばあさんと兄夫婦だけで子どもがいらないから、ずっといてくれていいよって言ってくれるけれど、向こうにあんまりなついてしまうと会いに行つた時寂しいしね。ほんま、ありがたいんやけど。

最近はお向こうの学校にも慣れてきたみたいです。田舎の学校で人数も少ないし、子どもが住むにはいいところですから。交通の便は悪いけど、環境は本当にいい。神戸にいる時よりも、子どもらもちよっとは勉強する気になってるみたいな感じですよ。でも長男は神戸の高校へ行きたいって言うてるから、こっちへ帰ってくると思います。息子にしてみれば、いくら田舎がいって言ってもこっちには友達もいますから。

下の二人はせっかく慣れてきたのを、こっちに連れ戻すのもかわいそうな氣もしています。それにこっちに来ると、また嫌なことを思い出すんじゃないかとも思うし、十分な世話もしてあげられるかどうか心配だし……。複雑な気持ちで毎日、同じことを一人で考えて堂々巡りしています。

子どもらの震災の影響については、男の子二人は大丈夫みたいだけど、末っ子の娘がちよっと心配です。お母ちゃんべつたりの子だったから、何かあるとすぐメソメソする。夏休みも、いとこの家に遊びに行かしてもらったんだけど、帰るとき別れるのがつらくて泣くんですよ。神戸に帰ってくるまで新幹線の中で、ずーっと泣いててね。

最近になって、ようやくお母ちゃんの話をしなくなったけれど、最初の頃はよく日記や作文に、お母ちゃんのことやお兄ちゃんのことを書いていました。子どものことを思ったたら、父親より母親が生きてた方がなんぼよかったかと思えますよ。

平凡な幸せがほしかった

震災の時は、ダブルベッドに子どもと嫁はんが寝て、その足元に布団を敷いて私が寝ていました。ドン！ という音で目を覚ましたら、ちょうど嫁はんの方にタンスと二階の部分が倒れてきていて、嫁はんのところへ行こうとしたんですが、手が届かなくてかばってやれませんでした。

タンスと梁の下敷きになりながら、
「お父ちゃん痛い、お父ちゃん痛い」

つぶされている胸から力いっぱい叫んだんでしょう。二度叫んで、それっきりです。子どもの方は、母親がつつかえになったおかげで奇跡的に無傷でした。

葬儀は二十二日に嫁はんの実家で行ないました。子どもを実家に預け、嫁はんをきれいにし、やってから、車の後部座席に寝かせて、嫁はんの実家に連れて行きました。

嫁はんの両親にしてみたら、娘が死んで悲しいわけですから、私がそれを慰めなくてはいけませんでした。と同時に私が彼女を守りきれなかった負い目も感じました。すぐそばにいたのに。タンスの下敷きになったのが男の頑丈な体だったら、助かっていたかもしれないのに。

私と息子は、同じ嫁はんの写真をペンダントに入れて持つてゐるんです。オレはいつもこいつ

のそばにいらんだって思いたいから。

息子は今二歳ですが、お母さんのことをちゃんと覚えていてほしいんです。地震のことは忘れていいと思ってるんですけど、嫁さんのことはね……。だから母親の写真を時々見せるようにしています。

でも私は彼女の写真をまともに見れないんです。思い出すとつらいし、今だに「お父ちゃん痛い！」っていう彼女の叫び声ばかり思い出してしまってます。

将来についてはまだわかりません。友達は何にも考えんと、

「はよ、子どものためにも再婚せんとあかんなあ」

なんて言ってますが、別に再婚しなくても、やっていければそれでいいと思ってます。ホントの親がいいでしょ。この子の母親はあいつ一人やし。

それに、もう一回いい人を見つけてたっていっても、僕を好いてくれるだけでなく、この子ども好きでいてくれる人でないと困るしね。

実は今の僕の母親は三人目の人なんです。僕が小さい頃、おやじとおふくろが離婚したんです。だから僕としては、結婚して子どもができたら、本当の父親と母親と子どもという家庭を大切にしたいと思ってたんですよ。そんな平凡な幸せでよかったんですけどね。それもこんな形でダメになってしまって、くやしいです。

お金の恐ろしさを感じた

主人は北側の部屋の窓辺に寝ていました。震災から一時間ぐらいたった頃、近所の人が瓦礫の中から出してくれたのですが、即死でした。主人はもともと朝が弱くて、発見されたときもあまり動いた様子もなかったので、地震に気づかないまま逝ってしまったんだと思います。

暮が好きな反面、宇宙やバイオのことなんかにも興味があつたようで、よくそんな話をしていました。とてもいい人で人の悪口を言うことのない人でした。私のことも好きなようにやらせてくれて、ありがとって言いたいです。ただ、まだ若かったので、もう少しがんばってほしかった……。主人の両親は主人をとともかわいがっていたので、一緒に連れていってしまつたのかなあと思っています。

相続の問題は家の権利にかかわることで複雑になってしまっています。自宅は震災で全壊しましたが、その名義が主人の両親のものになっていたもんですから、主人の妹さん二人が法定相続人だから、三分の一はもらえる権利があると主張して弁護士をたてているんです。こちらも生活権に関わることなので弁護士をたてています。

私、驚いたんですが、弁護士さんって顧問料以外に利益の十パーセントを受け取るんですね。このように混乱している時には、いろんな問題が発生するもんなんですよ。法律は困った時

に、弱い立場の人には役にたたないもんだということと、お金の恐ろしさを感じました。大変なことはいっぱいありますが、一つ一つやっていくしかないと思っています。

子どもは幸い二人とも無事でした。娘は男っぽくてどんな環境にも対応できる子で、親が亡くなって寂しくはなかったけれど落ち込むことはないようです。

息子はちよつと変わりました。男の子はむずかしいですね。特に下の子ということとかわいがられていたせいとか、自分の親が亡くなったということとを、私たちが考えている以上に深刻に受け止めているようです。主人に父親というよりは友達のように話しかけていて、親のありがたみを感じていないようだったけど、父親はなくてはならない存在だったようです。

勉強もしなくなったというよりは、捨てているみたいです。震災前は自分の部屋もあって勉強する環境があつたんですが、仮設住宅の今ではそれもできません。塾には通わせているんですけど、成績もガクンと落ちました。来年大学受験なんですが、体験したことがあまりにもショックなことだったので、集中できないらしいんです。

本人がどういふ進路を望んでいるのかわかりませんが、私が言っても聞きません。でも姉は信頼しているようで、言うことは聞くみたいです。娘もアドバイスしたりしてくれています。子どもも私もこれからが大変だけれど、がんばっていかなければいけないと思っています。

ゴトゴトさんがつれていったの

道綱正美（四歳）

パパまきみをおいてひとりでてんごくへいってしまった

パパにてがみをかくからね

パパなんておそらにいったの

ゴトゴトさんがつれていったの

マーチャンのおうちに来ていたらよかったのに

たかしマーチャンのところに来てね

〔解説〕この詩は、地震で亡くなったお父さんの姉にあたる伯母さんが、八月十二日に正美ちゃんがつぶやいたことを書き取ったものです。詩の中の「ゴトゴトさん」とは地震のこと、「たかし」はお父さんの名前です。

ガイコツに追われたゆめ

小学三年 窄 弘行

地震のあとで見たゆめは、こわいゆめでした。

ぼくが、へんな、わからないところに立ってて周りを見たら、ガイコツばかりで、だれかがちかづいてくる音がしました。

それも、ガイコツでした。

ガイコツが口からへんなこうせんをだしました。

ぼくがしゃがんだので、こうせんはガイコツに当たりました。

ラツキーとおもいました。

でも、ただラツキーだったからです。

こんどは当たりました。

そして、いたかって、ぼくは死んだゆめを見ました。

すごい、こわかったです。

あんなじしんがきたらたいへんだから、ぜったいきてほしくありません。

じしんはこわい、いつくるかわからないから気をつけてください。

ああ、もうダメなんだ

突然、激しく揺れて左に飛ばされました。私の左側に娘、右側には息子が寝ていたんです。何が何だかわからないうちに、気付いたら埋もれていました。一階も二階もつぶれて、娘と私は助かったんですが、一階に寝ていた祖父と、二階に寝ていた主人と息子がなくなりました。初めのうち、主人の助けて、助けてという小さい声がしていましたが……。

以前、私の父が死ぬ直前に、グウーツといういびきみたいな声を出したと聞いていましたから、隣にいた息子が同じように呻いた時は、ああ、ダメなんだってわかったんです。息子が一番先に外に出されたんですが、病院に着くころには、もう手足が硬直しはじめていました。

娘はよく遊んでいた息子がいなくなつたので、とっても寂しそうです。前より怒りっぽくなって、エレベーターなんかも恐がります。公衆便所さえも、今では行けません。ああいう狭い場所が恐いんでしょうね。眠っているときって、一番安心している時ですよ。そんな時に襲われたから、今でも夜になるとまた来るんじゃないかって思うんでしょうね。

こんな私たちに、友人の心ない言葉が突き刺さります。あなたよりましだからがんばるわとか、あなたたちは何も持っていないから私のお古をあげるとか……。悪意があるわけではないんだからと、自分に言い聞かせるんですが、やっぱり感情的に耐えられないと思います。

家は解体しました。家財道具はいっさい取り出せませんでした。身分証明書がなくて、困りましたね。取り出せたのは、アルバムと娘のランドセルぐらい。

震災後は二回引越しました。娘も二度転校したんですが、一度目の転校先の教頭先生が、とっても親身になってくださり、ランドセルとその中に入っていたものしかありませんと言うと、翌日には、書道の道具から何かから全部用意してくださって。

でも、今度の学校では、どういう事情での転校かが伝わっていませんでした。お父さんはとか、母子家庭なのに、なんで生活保護受けないのと、立ち入ったことを聞かれました。そんな雰囲気だからなのか、娘は一日一回は学校に行きたくないと言っています。なかなかじめないんでしょうね。神戸からの転校生とは仲良くしているようです。

寂しいものだから、震災前に通っていた学校の担任の先生に手紙を出したようなんです。でも、ぜんぜん返事がこなくて。返事を楽しみにして、毎日郵便受けをのぞいていたんですよ。いじらしいほどでした。かわいそうになって、今通っている学校の教頭先生に、話のついでにそのことを言ったんです。そしたらすぐにその担任の先生から、ノートやえんぴつが小包で届きました。もちろん、遅れたお詫びの手紙が入っていましたが、そんなモノがほしくて書いたわけじゃないのに……。以前の学校の先生とか仲良しのお友達が恋しかった、そんな子どもの気持ちをわかってほしかったなって、思いました。

仏さんになってしまえばしようがない

今度の地震で、別居中の夫が亡くなりました。文化住宅の一階に寝ていてアパートごとつぶされたんです。私と中学生の長女、小学生の長男と次男は、少し離れた公共住宅に住んでいて、家の中はめっちゃくちやになりましたが、命は無事でした。

夫の遺体の確認には姉が行ってくれました。思いのほかきれいで、死に顔も安らかだったそうです。この人のおかげで今まで大変な生活をしてきましたけど、仏さんになってしまえばしようがないですよ。

三年前、夫は母親を亡くしてから事業にも身が入らず、借金借金の連続でね。結局、多額の負債をかかえて事業に失敗し、私と子どもたちを残して雲隠れしたんです。私は乳ガンの手術を受けて入院中でした。当時、手元にあったのは千円札数枚だったんですよ。地獄のような毎日でした。

その後、神戸に住む姉に連れられて、こちらに引っ越してきたんです。しばらくして夫が神戸に姿を現し、ゆくゆくは同居する腹づもりだったようです。その矢先の被災でした。

私はこの通り病弱だし、実は去年の春から、子どもは向こうで暮らすということに決まっています。夫がまだ身辺整理ができていないからという理由で延びてましたけれど。なかなか

機会がなくて、子どもは一年ぐらい父親に会っていなかったんです。もし順調に進んでいたら、向こうで死んでたかもしれない、そう思うと、ぞっとします。

子煩悩な人でしたけど、子どもにしてみれば家の中のゴタゴタの種だったわけですから、なんとなくホッとしたような顔をしていますね。家族関係の張り詰めていたものがなくなっただけでしょうね。みんな心なしか、のびのびしてきたみたいでね。下の子たちはごくたまに、お父ちゃん、おらんねんとか、僕の名字は何何やったな、なんて口に出して言うこともありまけど。実際、長いこと会っていませんでしたし、あんまり寂しいという感じはないですね。

ガラリと変わったのは長女です。家庭内のもめごとを引きずったまま転校してきていじめに会い、登校拒否状態だったんですけど、この四月からは一日も休まず通っています。顔つきも明るくなりました。父親の死は確かに悲しいんですけど、心の中はスッキリしたようですね。

今のところ高校に合格できるかどうかが一番気がかりなんです。休みも多かったです、運動も苦手ですしね。難しい年頃にいろいろありましたからね。なんとか乗り越えてくれたらと思います。あしながさんの行事にも参加して社会勉強して、弟たちのよい見本になってもらいたいですね。

三人育てていくのは大変ですけど、しっかりやっていかなくちやと思っっています。

電氣をつけてないと眠れない

あの日、たまたま引越す予定だった新しいマンションを見に行っていたんです。何から運ぼうかなんて、いろいろ子どもと話し合ったりしてね。そのうち娘が、お布団持ってきて新しいお部屋で寝たいと言い出して、急遽泊まったんです。揺れはものすごかったけど鉄筋だったし、大きな家具もなかったから被害もなくてね。古い家の方は全壊でしたけど。

主人だけが実家に戻っていて被災しました。去年、父親が亡くなったもので、その後始末に行ってたんです。生き埋めになって一週間行方不明で、結局、遺体で発見されました。まさか死んだなんて思えませんでしたね。電話がないのも何かの事情だろうと。でもポケベルも鳴らないし、やっぱりおかしいということで、息子がバイクで見に行ったら家がベチャンコになっていてね。主人の母は、偶然京都に行っていて助かったんですけどね。

遺体が見つかって火葬された時も交通事情が悪くて行けなかった。避難所に連絡があったのがその日の朝でね。結局息子だけが立ち会いました。

今度のこと、父親っ子だった娘には相当ショックだったようです。もともと疲れるとけいれんを起こす持病があるんですが、地震の恐怖や環境の変化、父親や友人の死がかなり悪影響を与えたようです。父親の話をする・と必ず発作を起こしましてね。ずいぶん避難所の看護婦さん

や学校の医務室のお世話になりました。

今でも娘のことが一番心配ですね。震災後しばらくは、どんなに寒くても、部屋のドアを開けて電気をつけたままでないと眠れなかったです。最近はドアを閉めるようにはなりましたけど、電気は相変わらずつけたままです。

息子もその後、バイクで交通事故にあって一カ月半入院しましてね。両腕骨折で、もう死ぬかと思いました。相手の自動車が一方通行を守らなかったせいですけど、時が時ですからね。普通ならそんなルール違反をしなかったんじゃないですか。やっぱり何かにつけ震災さえなかつたらと思いますね。

うちの場合は、以前から二人とも大学進学はしない予定でしたし、全壊ということでも中学、高校とも授業料免除。徒歩通学ですから、奨学金はお断りしました。お金があまっているわけじゃありませんけど、もっと必要とされている方に回していただいたほうがいいと思うんです。会社は無事でしたので、なんとか暮らしていけそうですから。

私、友人の家が燃え落ちていくのを見ていたんですよ。水もなくて、何にもできなかったんです。もう、ただ茫然と見ていただけだった。大変なのは自分たちだけじゃないんですよ。私はまだいいほうだと思います。

無念の涙

家の中のガラス食器が、みんな壊れました。シャンデリアが粉々に砕け散りました。でも娘二人と私は無事でした。ただお父さんが、別の場所で被災して入院したんです。

お父さんが運ばれてから、家族四人、片時も離れないようにして病院に詰めていました。お姉ちゃんは一生命分、お父さんの世話をしてくれましたよ。下の世話までねえ。本当によくやってくれた。

お父さん、最初は死にたくないと言っていたけど、だんだん弱ってきてね。最後は、

「もうあかん、もうあかんって」

医者は透析すれば……と言いましたけど、もうダメだと思いました。便が真っ黒でしたからね。ああなるとだめなんですよねえ。下の子の顔をなでながら死んでいきました。

いよいよという時に、お父さん、涙をひとすじ流しました。無念の涙。でも、涙を流すのは仏さんが迎えに来てくれたからだというじゃないですか。本当にそうだと思います。八十八カ所のお寺を回って書いてもらった納経帳があったので、たばこと一緒にお棺に納めました。

今でもお父さんの死ぬ瞬間、死に顔、白骨になったところ、みんな思い出します。私が生きているのは、お父さんの菩提を弔うためだったのかもしれないと思う。私、去年、脳腫瘍の手

術をしまして、体があまりいうことをきいてくれないんです。姉がやっている花屋を手伝っているんですけど、五時間以上働くと体調が崩れるし、曲がらない指もあるんです。でも死ぬことは全然恐くないですね。絶対お父さんが迎えに来てくれると信じてますからね。

お父さん、何か立派なことをしたというような人ではなかったけれども、私達にはとてもいい人でした。キャンプやら旅行やらよく連れていってくれたり、おいしい物を食べさせてくれたりね。ブレスレット、ネックレス、指輪、毎年プレゼントもくれました。お金にも不自由しなかったし、優しい人でした。

震災で車もペッチャンコ、家の品物もたくさん壊れましたけど、お父さんが持っていったと思えば全然惜しくありません。お父さん以外になくしたものなんかありませんよ。お父さんがいないということがこの上ない悲しみです。

もしあの地震がなかったら二月に引越す予定だったんです。六甲小学校の近くにね。実母と折り合いが悪くて、早く出たかったのにねえ。

お父さんの顔も知らない人と、あまり思い出話したくないですね。いたずらに同情されたくない。震災ではたたくさんの家で大切な人を失っているわけだからね。私は私でかけがえのない人を失った。それだけです。

今でも信じられない

中学三年 窄 潤子

私たちが住んでいる神戸の町が、一月十七日の阪神大震災で一瞬にしてこわれてしまいました。なんて神戸に、なんて私たちに、こんな悲しくてつらくて苦しい思いをさせたのかと思うと、今でも怒りがこみあげてきます。

弘行はよく「お父さん死んじゃった」とか明るく言うけれど、私はやっぱりそういうことは言えません。お父さんのことは大切な思い出にして、自分の心の中にしまっておかなくてはいけないような気がします。

なんか、人に言っではいけないような、よくわからないけど……。お父さんが死んだなんてどうしても信じられない。今でも生きてるような気がします。

お父さんは天国へ行きましたか？ おばあちゃんやおじいちゃんにあえましたか？

私はお父さんの夢、こわい夢を見ましたよ。お父さんが家において、なんかマネキン人形がいて、それが動いて私をおそってくる夢でした。とってもこわかったよ。

こんど、お父さんは何に生まれかわるのかな？

生まれかわったお父さんと、どこかで会いたいです！

写真の中だけのお母さん

小学三年 太田めぐみ

お母さん、元気でいますか。わたしは元気でやっています。でも、あの時のことを思い出すと、今でもかなしくなります。

そんなときには、お母さんとりよう君の写真を見ています。

写真を見ると、会いたいきもちでいっぱいになります。

この前は、お母さんのかよっていた小学校にいつて、

先生にたのんで、写真を見せてもらいました。

とてもやさしそうなかおでした。

こどものときも、おとなのときも、やさしいかおやったんやね。

お母さんは、わたしのことをどう思っていますか。

わたしのことすきでしたか。かわいいと思ってくれましたか。

もう、きくこともできません。

もつと、もつと、おはなしたかったのに……。

お母さん、りよう君と二人で天国でしあわせにね。

天国で私たちをみまもっててください。

自立しなければ

気がついたら、屋根が落ちてきていました。私は一時間後、なんとか自力で這い出すことができました。本当に危機一髪、わずかに瓦礫がなめになってすき間ができたんですね。家内の上にはタンスが倒れ、さらに二階の屋根が乗っかりましてね。もうあかん、何もできんかったです。足だけはさわる事ができるところにあつたので、ずっとさすってました。声をかけても返事がなくてねえ。最初は温かかったんですよ。三十分ぐらいした頃だったかな、ブルブルと痙攣したんです。たぶんその時が最期だったと思います。

しばらくして消防署が来たけれども、家内が出されたのは翌日でした。生存者中心の救出作業でしたからね。もう亡くなっていると言われて、後回しになりました。

家内は、教育熱心でした。娘には小学校四年生から進学塾へ通わせていましたし、子どもが大学に入ることが唯一の楽しみやと言っていました。家も財産も残せないから、せめて教育だけでもという考えでした。それに一生懸命で、自分の夢は何も見ずに死んでいったんやなあ。

今は仮設住宅に私の両親と娘と四人でわいわい住んでいます。その前は知り合いの家の一部を借り、娘と二人で暮らしていました。息子は遠くの高校に行っていて別ですから、二人で家事をしなければならなかったです。食事は娘が作ってくれました。震災前は何一つしなかつ

たのに、よくやりましたよ。人に頼る気持ちが出てくるとこれからの生活にマイナスになる、なんとか自分たちでやっていこうと、娘にも言いましてね。こういうことがなければ、平々凡凡、学校と塾を往復する生活を送っていたんでしようから、まあ、いい面と悪い面、両方あるとも言えますね。

これからは自立していかないと考えていますので、ボランティアの方々のご厚意は大変ありがたいのですが、時にはお断りすることもあるかもしれません。

地震の時の一人の無力さはいやというほど思い知りましたけれど、実際には今後は家族だけでやっていきませんか。私の両親、私と二人の子ども、別の仮設に入っている祖父母、合計七人が暮らしていける家を建てなくてはならんです。なんとかなると思うんですがね。せなあかんのです。

進路については、娘にはまず公立高校を狙ってもらおうと思っております。震災がなければ私立高校でもよかったです。息子にも、家から通える地元の国公立大学に進むよう言っているんですが、こればかりは成績との相談ですからね。今の成績では難しいのかもしれない。娘も、ゆくゆくは大学を出してやりたいですからね。国公立なら行かせてやれると思うんです。それが亡くなった妻のただ一つの願いでしたからね。願いを果たすのが私の責任やと思っております。

苦しい、はさまれた…

五時三十分。妻は私の朝食を作るために、一階に降りていきました。私はまだ赤ん坊の娘と一緒に二階に寝てたんです。突然の大地震に、とっさに娘の上に覆いかぶさりました。幸い倒れ落ちるような家具は何も置いていない部屋だったので、私と娘は無傷で助かりました。しかし妻は崩れ落ちた一階にいたんです。必死で叫ぶと、

「ここ……、苦しい、はさまれた」

声を頼りに壁や床などをどかしていくと、隙間から妻が見えました。冷蔵庫と柱との間にはさまれたんです。近所からスコップを借りての救出作業の間中、ずっと声をかけ続けたのですが、しだいに返事が小さくなっていききました。救出後、何度か人工呼吸しましたが、ぐったりしたままです。すぐに抱いて病院にいきましたが、圧死ということでした。

葬儀を済ませたあと、崩れた家から家財を持ち出す時に、冷蔵庫は見るのもつらくて、取り出せませんでした。

しばらくは親戚の家にお世話になりました。でも、自分達がいることで親戚の家の生活パターンが乱れるような気がして、気詰まりでした。とくに食事には気を使いましたね。ご飯をもう一膳と思っても言い出せなかつたりしました。気疲れて、すごく体重が落ちました。

震災後数カ月でようやく業務を再開できた勤め先では、妻を亡くしたのは私だけでしたから、特別扱いされて困りました。大丈夫かとか、がんばれとかの言葉かけに、いちいち無理に明るく応えるのもチャラチャラしているようでいやだし、かといって暗くなってもしょうがないので、つい堅く構えてしまうんです。励ましの言葉は案外重荷になるんです。被災者はがんばっているにきまっているじゃないですか。

仮設住宅にも申し込みましたが、はずれました。しかし、それほど望んでもいませんでした。それは、震災後娘の面倒をみてくれるのは、以前から付き合いのある近所の人達だったからです。もし仮設住宅に移ったら、知人のいないところで娘との生活を始めなければならなかったです。今、今は、賃貸アパートで暮らし、昼間、娘は保育園に預けています。

震災前は娘の世話は、すべて妻まかせでしたから、私は娘に着せるべき服のことも、食べさせるべき食事のことも、まったくわからなくて困りました。震災当時も今も、いちばん大変なのが育児と仕事の両立です。娘だから、今後、男親では理解しがたいことがたくさん起こるだろうし。でも、とにかく明るく育ててほしいと思います。

震災時、娘は眠っていました。ですから、心に地震への恐怖は残っていないでしょう。震災後、しばらくはママ、ママと母親を求めていましたが、最近はやわらなくなりました。地震だけでなく、母親のことも心から消えてしまうのでしょうか。

信じたくないんですわ

非常階段で外に逃げようとしたら、娘の家のほうのマンションから火が出ていました。息子に頼んで見にいってもらったら、誰もおらへんって言うんです。

気になって今度は私が行ってみました。そしたら近所の人が、娘さんが大変だ、子どもは避難して大丈夫やって教えてくれたんです。

病院にかけつけたけれど、先生は、もうあかんと行って処置してくれませんでした。

「何にも処置せん」と

息子は怒ったけど、もうダメやって。

今回の地震では二階にいたら助かっているのに、娘は運が悪かったんですね。たぶん、床柱が当たって、内臓が破裂したんじゃないでしょうか。

下の子は娘と一緒に寝ていたはずなのに、揺れがひどくて遠くに飛んでいたそうです。上の子は別の部屋で寝ていたんですが、倒れたタンスが壁に引っかかって、空間ができて助かったみたいです。

ふだんは一、二週間ぐらいいしゃべらないのに、たまたま前の晩、少し話をしたんです。それが最後だったんですね。それがせめてもの救いです。

けれど、今でも信じられないんですよ。信じたくないとか……。蒸発でもした感じで、死んだなんて思えないんです。娘の住んでいた家の近くを通ると、不思議と涙が出てくるんです。自分に言い聞かせるんですけど、まだ信じたくないし、あまり拝みたくない。

娘の遺体について区民センターにいる時に、風邪をひいてしまつてつらかったですわ。夜は毛布一枚で震えていました。ふだんから甲状腺をわずらっているから、ひどくなつたら心臓発作も起こしてしまつて、怖いんです。

医者も風邪の患者を診て回るほど余裕なかったですからね。風邪で死んだ人もたくさんいましたよ。せつかくあんな地震で助かったのに。

救援物資はすぐ来ましたね。でも、そんな体で並ばなければいけないのは、ほんとにしんどかったです。もう、取り合ひでしたからね。遅いと回ってこないし。お風呂は一週間ぐらいしてからきました。

それまで私、血の付いた手でご飯食べてたんです。死んだ娘の顔やら足やら撫でてあげてたでしょう。だから手が血だらけだったんですわ。でも、なんとも思わなかった。自分の娘だからね。

ボランティアの人達には、すごく助けられました。腰が悪い私に代わつて、頼むと掃除でもなんでもしてくれるんです。本当に、ありがたかったです。

早く出さんと燃えてしまふ

地震が起こった時、私は新聞配達の途中でした。立ってられないほど揺れるので、しゃがみ込みました。しばらくして目を開けると、まわりの家はほとんどつぶれていました。

とにかく家に帰ろうと、必死に走りました。道路は電線が散らばって通れないところもあり十分ぐらいかかったんです。着いてみると、わが家はつぶれてしまっていて、玄関も何も見えません。すると姉と弟が自力ではい出して、瓦の上を伝って降りてきたんです。

二人ともケガはありません。姉の話によると、タンスが倒れてきたので、それをよけて、ふと目を開けると空が見えたそうです。

父と母の姿は見あたらなかったんですが、二年ほど前から毎日ラジオ体操に行っていたので、きっと今も会場にいるんだろうと思っていました。六時は過ぎていると思っていたんです。でもいくら待っても戻ってこないのので迎えに行っただんですが、そこには誰もいません。急いで家に戻ってくると、姉がこの下にいるのかもしれないって言い出したんです。

近所の人や知り合いに助けてもらって、掘っていくと二人の遺体が見つかりました。即死だったみたいです。そのころ、すぐ近くまで火が回ってきていて、火の粉が飛んでくる中で作業でした。病院に運ぶ時には、すでに家が燃えはじめていました。

父と母はとっても仲良しでした。二人で出かけることが多く、地震の前の日も、私たち子どもを置いて、二人でお寿司を食べに出かけました。お土産にハンバーガーを買ってきてくれたことを覚えています。あともう少し、地震が起きる時間が遅かったら、二人とも助かっていたのになあなんて思ったりします。

前の家があったところは、今もそのままになっています。まだ、先のことは決まっていませ

ん。
今は三人で暮らしています。洗濯は姉が担当し、食事は姉と私、風呂の掃除は弟です。今まで、三人ともほとんど手伝いらしいことは何もしてきませんでした。もっと手伝いをしてあげばよかったなど、今になって後悔しているんです。

あれから半年たちましたが、姉は少し涙もろくなっています。今まで父や母がしてくれていたことを、全部引き受けなければいけないという責任感が重荷になっているのでしょうか。

時々、父と母のことを話します。

「お母さんやお父さんが、今ここにいたらどうするやろか」

「今これをしたら、なんて言うやろか」

なんて、よく言いますね。今でも地震のことは嘘だと思いたいです。でも、本当のことなんですよね、つらいけど。

待っとなつて、待っとなつて、待っとなつて

主人はタンクローリーの運転手でした。毎朝、会社の人達と神戸までタンクローリーで出かけていたんですが、その日は主人だけ遅れて出勤し、高速道路の上で事故になったんです。

揺れがきたときに、高速と高速の継ぎ目がパツと浮いて、そこにぶつかって、もうハンドルを切る間もなく……。即死だったと聞きました。

神戸の町に遺体を引き取りにいった帰り、町を出るだけで五時間もかかりました。道がすごいデコボコだったんです。やつと通れそうと思うとバアーツと火が上がってきました。

主人は優しい人でした。自分が子どもどころ家庭に恵まれていなかったものだから、私や子どもたちを大事にしてくれました。私も仕事で忙しく、台所をそのままにしていくと、いつもお茶碗洗って、ご飯炊いて、お風呂を沸かして、待っていてくれました。

子どもがアルバイトで夜遅くなると、

「もうわし、寝なあかんのに……」

と、ぶつぶつ言いながらも連絡を待っていて、電話がくれば、

「待っとなつて、すぐ迎えに行く」

って飛んでいったものです。待っとなつて、待っとなつて、いつも家族を待ったり、待たし

たり。家族と一緒にいたがる人でしたね。

今でも死んだような気がしません。だって、いつも夜の買い物も主人と一緒に行っていたものですから。

あの朝、

「行ってくるで。ちょっと今日帰り遅くなるけど、待ってよ」

と例の言葉を残して出ていったきりなんです。

心の支えになるのは、やっぱり子ども。それから、猫。私、猫好きなので。上の子ども達は社会人で、いちばん末の子だけ高校生だったんですけど、その末の子も悲しんでいる母に面倒をかけてはいけないと思うのか、しっかりしてきましたし、優しくなりましたね。前は、自室にこもりがちで、あまり家族と話しながらなかったけど、

「今日、なんかお父さんに似た人見たんや」

とか、父親についても、話すようになりました。その子が作文に書いていたんですが、

「お母さんがおるからがんばらな、いかなのや」

って。子どもでもそんなふうに思ってくれてるんだなと思ったたら、私もがんばらなあと元気が出ました。

負けてたまるか！

小学五年 西田浩也

阪神大震災から九か月たったけど、ぼくには一生忘れられない。一月十七日、ぼくがトイレからもどってねたしゅん間、「ゴゴゴゴゴゴゴゴ」。「なんだ」と気になったとたんゆれた。そして、「ドンガラガッチャ」。家がつぶれてしまった。

ぼくは「いたいよ。いたいよ」。「死ぬのか。まだ子供なのに」と思った。お姉ちゃんだけ自分で外に出られた。しばらくして、おじさんやおばさんが、ぼくを見つけてくれた。

でも、お父さんとお母さんはまだ下じきになったままだ。二人の声は聞こえた。どれくらい時間がたったのか、お父さんとお母さんが助け出されてほっとした。

でも、あくる日、お父さんは天国へ行ってしまった。とても悲しくて、悲しすぎて、なみだも出なかった。今は、おじいさんおばあさんといっしょに天国へ行ったから、三人で楽しんでるかも……。

ぼくは、お父さんとサツカーしたり野球したりする夢をよく見る。目が覚めたら、お父さんはいないし、とても悲しくなる。でも、負けないぞ。お父さんやおじいさん、おばあさんの分までがんばるぞ。見ていてね。負けてたまるか！

国も県も市も株式会社なんやろか？

嫁はんと二人の娘を亡くして、今は中学生の息子と二人暮らします。震災後は方々転々として、八月にこの家を買いました。この家だって向こうの端とこっちの端では五センチも違って傾いてる。だから土地の値段だけがいいと言われました。家はなんとか直せばいいから。

義援金は赤十字から二十万円。ちっぽけなものでしょう。社会保険にも入ってたし、私が仕事をしてるから、別に経済的には困ってませんけどね。やっぱり食事が不便で、最初は作ってたけど、今はほとんどが外食です。掃除と洗濯だけで、手いっぱいですからね。

しかし行政はどうしようもないですね。警察に行って死亡診断書を書いてくれと頼んでも、部署が違ふとたらい回しですからね。そいつらはストープにあたってただけなんですよ。罹災証明だって郵便でいいでしょう。離れたところで避難している人もいるのに、わざわざ行く必要ないでしょう。

神戸市っていうのは株式会社なんですかね。利益にならんことはしないらしい。一つ三百万円もかかる仮設をぎょうさん作るより、それを現金でみんなに分け与えればよかったです。

それに活断層だってわかってたら、どんどん公開するべきですわ。これからのこともあるんだから。なのに国益に関わるからって公開しない。いったい政府ってなんですか？

子ども達を残してくれてありがとう

私達は学生結婚をしているので、小学生を頭に三人の子持ちなのに、主人はまだ三十歳でした。本当に真面目で子煩悩でいい人でした。

グラツときた瞬間、私は一番下の娘をかかえ込み、主人は私と娘を守るようにその上に覆いかぶさってくれました。そこに梁が落ちてきたんです。でも、最初は話してましたし、苦しがつているふうでもないし、助け出されるまで隣にいて、私がケガ一つしてないんだから、まさか死ぬなんて思いもしませんでした。

出てきた時には、もう息絶えていました。近所の人が簡単な担架を作ってくれて、安置所に連れていったんですが、大きな人だったので重くて一時間くらいかかりました。

でも、子ども三人が無事で本当によかった。主人があれほど慈しんでいた子どもですからね。残してくれてありがとうと思ってます。大切に育てていくつもりです。

自宅と店は主人の実家のものだったので、相続は放棄して、そのかわり自分達だけで暮らさせてくださいと主人の実家に言いました。幸い、私の実家の父が会社をやっているんで、名前だけ入れさせてもらって、そこから生活費をもらっています。

心臓マッサージを知らなくて悔しい

妻とは同じ布団に寝てたんですよ。なのに私の上には本棚が倒れてきて、壁と隙間ができたものですから助かったんです。でも妻の上には柱が落ちてきたんでダメでした。人間の運命なんて、本当にほんのわずかのことで違っちゃうんですね。

震災後一時間で救出した時には、もう息はしていませんでしたが、まだ体は温かかった。見様見真似で人工呼吸や心臓マッサージを繰り返したんですが、やっぱり本当の方法を知らないですからね。後になって、肋骨が折れてしまうほど強くギュッギュッと押さなければならなくて聞いたけど、その時にはわからなかったですものね。

今はそのことが一番悔しいんです。

七時過ぎに病院に連れていったけれどもうダメで、安置所に行ったら、どんどん死体が運ばれてくる。硬直状態で曲がったままの死体が多くて、つらかったですね。こんなところに長く置いておきたくない、すぐにでもちゃんと焼いて弔いたいと思って、火葬場を捜し回りました。あまりに急に死んでしまったから、最後に妻の声を聞くこともできなかったのが心残り。妻と妻の母親と三人で四国のお遍路回りをしようって言ったのに、三十三カ所のうち、まだ二十三カ所しか回ってなかった。あと十カ所回っていたら助かっていたんでしょうか。

みんな普通じゃなかった

妻を亡くしました。すぐにでも葬式をしてやりたかったけれど、葬儀屋もつぶれていて、でもできるかぎりのことはしましよと言ってくれたんですが、昼頃になって、なんの道具もなくてどうしようもありませんと返事がきました。とりあえず棺桶だけ持ってきてもらい、妻の田舎に運んで、そこで葬式をしました。

うちは店をやっていたんですが、家内の人柄がお客さんに好かれてたんですね。震災後、知らずに寄ったお客さんが、涙を流してくれましたよ。

震災の後は渋滞がひどかったけれど、家内の実家から、毎日車で二時間半かけて店に通ってました。ともかくひどい渋滞なんで、私はよく飛び降りて交通整理をしていました。あの頃はみんなの精神状態も普通じゃなかったから、ドライバーもすごく素直に言うことを聞いてくれてね。あんな時に警官がいればもっとスムーズになったと思うけれど、一人もいなかったですね。

パトカーや自衛隊やは、異常なほどサイレンを鳴らして走り回っていたけれど、救急車じゃないんだから、鳴らさなくていい時もあったんじゃないかと思うけどね。あれを聞くと、まるで空襲警報みたいで、ものすごく恐怖心が煽られて、いやでしたね。

助けられたんじやないだらうか

僕ら二人兄弟を、母は離婚してから女手一つで育ててくれました。いつも僕らのことしか考へてないような人でした。

三階建ての家で祖母や叔父と同居してまして、僕ら家族は三階に住んでいました。僕と弟は隣の屋根に飛び降りて、膝に大ケガをしたものの何とか逃げられたんだけど、母は三階の廊下に出る扉が開かなくて閉じ込められたんだと思います。一階で祖母が朝食の支度をしていて、そのストーブの火が回って、鉄筋だったから周りは焦げているくらいなのに、家の中は全部燃えてしまいました。

僕はケガで病院に運ばれてたんですが、近所の人の話によると、消防署が来たのは一時間もたってからだそうです。しかも一階と二階に一応チョロっと水を掛けたくらいで、三階は火の勢いがひどくてもう手がつけられなくて、水もかけずにすぐに帰ったらしいんです。

祖母と母を亡くしたんですが、祖母は一階にいて水が掛かっていたからまだ形はあつたけれど、母はもう棺が大きすぎるくらいパラパラでした。

今でも、あの時、母を迎えに行っていたら助けられたんじやないかと思えます。すごく悔しいです。

震災ではケガ一つしなかったのに

主人は肝臓が悪くて、二年前から入退院を繰り返していました。毎日点滴を打たなければいけないのに、震災で一週間打てなくて、それが原因で亡くなりました。

地震の後片づけのあと、親戚と鍋を食べにいったんです。そこで主人が一人、寒い、寒いって言ってたんです。その晩、夜中三時ごろ、ガバツと起き上がって、私がトイレから戻ってきても、ベッドの上に座ったまま。どうしたかと聞いても「あー」と言ったり、口笛ふいたりしているんです。翌朝、救急車を呼んだんですが、暴れて暴れてどうしても乗ろうとしないんです。仕方なく息子と三人がかりで縛って乗せました。

その後、五日たって、ようやく意識が戻りました。でももう立てないし、お腹に水がたまり、座れないほどパンパン。寝る前にもドライヤーをかけるくらいおしやれな人だったのに、よだれを垂らしっぱなしにするし、目は真っ黄色。かわいそうでした。

病院には、震災のショックでボケてしまったお年寄りもたくさんいました。主人も、点滴のこともあったんでしょうが、震災のショックが大きかったんだと思いますよ。おじいちゃんのおじいちゃんを見つけたのも主人だったし。子どもが働けるようになったら、細く長く暮らそうやって言ってた矢先だったのに……。